

### 南海日日新聞記事(10/30発行)

(9) 社 会 2012年(平成24年) 10月30日 火曜日 南 海 日 日

# 独自性生かした振興策を

## 「夢」会議がシンポジウム 徳之島

【徳之島総局】徳之島振興への協力を掲げ、関東在住の出身者を中心に組織するNPO法人「徳之島『夢』振興会議」(徳田昌則理事長、会員数1332人)の設立10周年記念「花と結のシンポジウム」が29日、伊仙町のほーらい館であった。会員のほか、観光や農業に携わる官民の関係者など約120人が出席。観光・物産に関するパネルディスカッションを行い、世界自然遺産登録をチャンスと位置付けるとともに、地域の独自性を生かした振興策への取り組みを求める意見が寄せられた。



徳之島の独自性を生かした振興策をテーマに位置付けたシンポジウム。29日、伊仙町

伊仙町制50周年記念一画。徳田理事長は「徳式典開催に合わせ」之島ブランドの発信や

観光立島への取り組み、世界自然遺産登録への機運づくりで島の発展に取り組みうなどあいさつした。パネルディスカッションに先立ち、同会が発足当時から島内で進めてきた草花の植栽活動「フラワールード運動」について経過報告。会場からは「世界自然遺産登録を踏まえ、在来種の植栽で独自性をPRしてはどうか」などの提言もあった。

3町の観光会長やマンゴー生産農家、行政の物産担当者らが登壇したパネルディスカッションでは「人々との触れ合いや、地場産食材を活用した徳之島の

独自性PRを(副島博徳之島町観光協会長)、「観光客を対象に特産品の試食の場を設けてはどうか」(新田幸吉奄美群島プレミア

ムマンゴー生産販売組合長)などと提言。航空機の小型化に伴う物流速度の低下を懸念する声もあった。

奄美群島観光物産協会の松元英雄統括リーダーは世界自然遺産登録へのメリットを強調する半面、多数の観光客来島を予想し「徳之島の観光はこの程度か」と思われないよう、受け入れ体制の拡充を」と強調。重田勝也徳之島観光連盟会長は「物産と観光は車の両輪。島外への観光PRが物産振興につながる」と述べた。



ベルマーク

## ベルマーク収集経過報告

「夢」振ではベルマークを集めて1万点たまると共に徳之島の小学校へ寄贈してきました。現在9,300点になっています。皆様のご協力をお願いします。

問合せ先：〒151-0072東京都渋谷区幡ヶ谷3-65-15 (TEL.03-3299-3650 定久律子)  
又は「夢」振事務局：〒171-0021東京都豊島区西池袋3-25-15 津田司法書士事務所